

主婦依子の場合

主婦の依子は、幼い時から母に受けた便秘時の愛情浣腸が忘れられません。母の優しいお浣腸の味は、そのお尻が覚えています。結婚してからもお便秘がちで、浣腸との縁は切れそうもありません。

土曜日の午後、主婦の依子は、親友の主婦美奈子と二人、井戸端ならぬ喫茶店の奥の人気のない席で、ヒソヒソ話しの最中です。

二人は41歳の同年で、その熟れた身体を寄せ合って、更年期に差し掛かったお互いの夫婦の話に夢中になっている所です。

「ねえ！ 依子さん、この前の晩のこと！ ご主人にお浣腸されたんでしょう？ どうしたのよ！」

「美奈子さん聞いてよッ！ あの晩、主人に藍子がお便秘でお浣腸してやった事を報告したのね。主人は『それで治ったのか？』って聞くから『嫌がったけど、いっぱいお便出して元気になったわよ』って報告したの。」

「それで？ ご主人は？ なんて?!」

「『良かったなって。年頃の女は便秘が多いから気を付けてやれよ！ ところで、どうなんだ？ お前は最近？』って聞くから『大丈夫よ！ 最近ないの！ なんで？』って言ったの！」

「へえ！ それで？ 実際どうだったのよ？ 貴女のお腹？」

「実はあの時、私もお便秘だったの！ だって言えないじゃない！ 分からないと思って、誤魔化

したの！」

「ほんとに？ 大丈夫だったの？ 夜ベッドでは？」

「そう！ あの日金曜日だったでしょう！ 夜、ベッドで主人に色々エッチな事されたのね！ その時お尻の奥まで触られて『なあんだ！ お前も便秘してるじゃないか！』って笑われたのよ！ すごく恥ずかしかったわ！」

「それで？ えッ、なに？ それで！ お浣腸？ されたのね！」

「主人には『浣腸する』とは言われなかったけどね、色々エッチされて私興奮してたでしょう！

『あなたん！ お浣腸してちょうだい！』ってつい甘えて言っちゃったのよ！」

「わあ！ 凄くエッチ！ あなた！ 聴いて興奮するわ！ どうしたの？ 旦那様は？

それで？」

「そんな時だから素っ裸でしょう！ 主人にお尻パチン！ と叩かれて『イチジク持つておいで！』 って！ それでお尻開けられて、イチジクでお浣腸されちゃったのよ！」

「わあいやだ！ 凄くエッチね！ そんなの、羨ましいッ！ 私も濡れてきちやったわ！

それで？ それで？ どうなったのよッ!？」

「お尻ティッシュで押さえられながらお浣腸我慢してるのに、面白がってオッパイとかあそことか、わざと触って虐めるでしょう！ もう辛くって大変だったわよっ！」

「ええッ！ ご主人本当にエッチ！ そんな事されたの？ ア羨ましい！ 私も主人にお浣腸されていじめて欲しいわ！ 滅茶苦茶にされたいッ！」

二人は興奮を収めるように冷めたコーヒーを口にしました。

「まだ聞きたい？ もうやめる？ 美奈子さん、顔が赤くなってるわよ！」

「いいわよッ！ もうこうなったら、最後まで聞かせてッ！」

美奈子は興味深々、依子の小声の話しに聞き耳を立てています。

「そう！ お浣腸で辛いのに色々悪戯されて、お腹は痛いし我慢するのが大変で、お尻くねくねして『嘘ついてゴメンなさい！ お便所行かせて！ もう！ 出ちゃう！』って叫んだわ！ それでも

行かせてくれなくて、お尻を叩かれてお仕置きされたよ！」

「ええ！ ワーッ！ほんとッ！ ご主人、依子がお浣腸でお尻振るの見て萌えちゃったのね！」

お尻叩かれて大丈夫だったの？ 痛くってお漏らししなかった？」

「ベッド汚せないでしょうッ！ お尻叩かれて痛いし、押さえられて動けなくて、泣きながらお尻くねくねで必死で堪えたのよ！」

「ワア！ その様子！ 依子の表情見えるようだわ！ 私も聞いただけで恥ずかしくって変になるわっ！ 萌えるお仕置き！ 私も主人にお尻叩かれないわ！ それで？ その後、おトイレはどうなったのよ？」

「主人、危ないところで私のお尻にティッシュを挿んで、お姫様抱っこでおトイレへ運んでくれたの。主人は前に立って私の頭抱いて背中撫でてくれていて、何だか主人に甘えなくなつて、主人のお腹に顔押し付けてお尻弛めたのッ！ 『あなたーッ！ ごめんなさいーッ！ アアッ！』

ビビ！ ブブ！ पीッ！ ビビピーッ！
排泄の恥ずかしい音と匂い出しながらお便秘が次々に続いて出て、ほんとに気持ち良かったの！
お便の匂いと主人の男の匂いが混じつて、恥ずかしいほどお股濡らして、その場で無理やりレイプされたかったわ！」

「わああ！ 羨ましい！ 私もうダメッ！ 濡れちゃつて立てないわ！ 依子さん！ お股のパッド持つてる？ 後で貸して？ それからは？ あなた、もうお股は準備完了よね！」

「そうなのッ！ でもまだお便秘が出そうで、主人にギュツとしがみ付いたら、わたしの顔を上向かせて主人のあれッ！ 啜えさせられたのッ！ もう恥ずかしくつて、便出しながら夢中でおフェラしたのよ！ 主人凄く硬くつてお口にいつぱいで、もう感じて逝きそうだったのッ！」

「まあ！ 素敵！ あなた愛されてる妻ね！ 旦那さまの強い愛情ね！ ご主人素敵だわ！ それで？ その後の肝心のベッド？ どうだつの？」

「そう！ お浣腸終わつてから二人でシャワーしてベッドに戻ったの！ 私、シャワーしたのにお浣腸の後だからお股濡れ濡れでしょう！ 主人に脚を担がれて直ぐに硬いの入られたのよ！ もうアッ！ と言う間に逝かされちゃったわ！ その時の主人絶倫で、上から抱きしめられて、キッ

スしながらパン！　パン！　パンン！　私もお股一杯抜げて奥まで突かれて、もう！　失神状態！
本当に何度も逝かされて、白目になってたつて、後で主人に言われたわ！」

「わああダメツ！　もう我慢できないわツ！　私、お漏らししてビショビショよ！　ねエ、パッド貸して！　早く帰って主人にお浣腸のおねだりしなくっちゃーツ！」

二人の奥様方は、お尻をくねくねさせながら喫茶店を出て、タクシーを捕まえ仲良くご主人の元に帰って行きました。

依子はその夜の寝室で、熟れた身体を主人に寄せて甘え、身体の扱いを主人に任せていると、主人は愛妻の背中やお尻を撫でながら、

「依子！　お前、少し太ったね！　お尻大きくなって魅力的だよ！　でも！　いいかい！　これ以上太ってきたら、お前の体重を管理するよ！　私の理想の妻の体重にねっ！」

主人は、妻の豊満なお尻をピチャピチャと叩きながら、その容姿について釘を指しました。

「あなた！　そんなこと言つてツ！　恥ずかしくつてもうダメ！　はやくツ！　抱いてくださいッ！」

主人は依子の大きなお尻を持ち上げて、怒張した象徴を濡れそぼる依子の陰唇に後ろから分け入れて、味わうように出し入れしながら、深く貫いていきました。

依子は夫の抽送を高く挙げたお尻で受けながら、

（私、これ以上太ったら、お仕置きとお浣腸で主人に体重管理されるのかしら！　アアツ！　恥ずかしい！　どうしよう！）

依子は頭の中でその情景を想像しその恥ずかしさに感じて、主人の後ろからの抽送に喜悦の声で鳴きお尻を振って答えたのです。

妻の大きなあえぎ声を聞いて、主人は最後の深い打ち込みを続けます。

パンツ！　パンツ！　パンツ！　パンツ！

依子はそれを受けながら、主人の指が肛門に入れられる同時に絶頂に達して、

「アアツ！　あなたーツ！　イクーツ！　イキマスーツ！　アアアツ！」

依子の膣内で膨らみ硬直して性液を噴出する夫の男根を、依子は絞り取るように膣で二度しごき、同時に失神して女液をどつとシーツに漏らしてしまつたのです。

(了)



<https://www.spaceginga.com/>

SPACE 銀河